

カンデサルタン2mgを飲む男

「飲む男」シリーズ(?)の第2弾になりますが、今回で最後になります。

1) カンデサルタンとは

言うまでもなくアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬(ARB)になります。規格としては2mg錠、4mg錠、8mg錠、12mg錠の4ラインナップが用意されています。現在ARBは7成分製品が発売されていますがその内3種類が4ラインナップ、4種類が3ラインナップと比較的他の規格製品が多い印象がありますが、おそらく腎機能低下例には低用量から開始することになっているためと思われます。

2) 67歳男性H氏の場合

現在、高血圧関連でK病院、合併症関連でS病院に通院中。職業は薬剤師。K病院での病歴は2002年頃、K病院の院外処方箋の発行準備業務と新設する門前のT保険薬局の受け入れ準備業務の両方を担当して多忙だった時期に頭痛を覚え昼休みに近所にある自宅に戻り家にあった血圧計で測定したところ収縮期血圧が200mmHgを超え、拡張期血圧が110mmHgに達していたため直ぐにK病院内科を受診した。病院での血圧は家庭血圧ほど高くはなかったものの直ぐにカンデサルタン8mg1錠が処方された。思ったほど血圧が下がらずアムロジピン5mg1錠を追加したところ徐々に血圧も落ち着き、その後アムロジピンを中止、カンデサルタンも8mg→4mg→2mgと減量され現在に至る。

☛H氏はK病院勤務時代から血圧高めを指摘されており何度か外来ナースが薬剤科へ訪問し外来受診するよう助言していましたが多忙ゆえに無視をしていたことを反省し、またハイレベルの高血圧には効果発現が遅いARBより効果が早くさらに強力なCa拮抗薬の方が良いのではないかと内心思っていたものの当時の主治医の判断に任せたと述懐していました。

現在の家庭血圧は朝の収縮期血圧が概ね115~128mmHg、拡張期血圧が概ね70mmHg前後を推移し、ほぼ良好状態を保っている。夏場は日によっては収縮期血圧が100mmHgを切る時もあり、かつふらつきもあったため2mg錠を中止した期間もあった。しかし冬場にかけて上昇傾向が見られたので2mg錠を復活するもそれ以上の増量がない状態を継続している。

☛H氏が服用するカンデサルタン1回2mgは添付文書によると腎障害をもつ者の最低用量になっており、一般の人の常用量の最低用量は1回4mgとなっています。明確な腎障害をもっていない(つまり一般の人の)H氏にとってみると最低用量より少ない量を服用して様子を見ていることになり、本当にカンデサルタンが必要なのか?という疑問も生じてきます。もちろん体格、年齢など諸条件により2mgでフォローされている患者さんもいるので個別に判断されるべきだと思います。

3) 白衣高血圧

H氏は前述のように高血圧管理のT病院と合併症管理のS病院に通院しているのですが、S病院での診察前血圧測定では必ずと言ってよいほど血圧の値が高くでます。収縮期が150mmHg前後、拡張期が90mmHg台まで行くことがしばしばです。S病院受診前に家で血圧測定すると正常な血圧であ

ることを主治医に伝えるとこの病院の血圧計は高めに出る傾向があるようだとされます。しかしH氏は明らかな**白衣高血圧**ではないかと思っているようです。

ちなみに白衣高血圧は「高血圧治療ガイドライン 2019、以下ガイドライン」では以下のように定義づけられています。

診察室血圧の収縮期血圧が140mmHgかつ又は/拡張期血圧が90mmHg以上で、家庭血圧が収縮期血圧135mmHg未満かつ拡張期血圧85mmHg。

ガイドラインによると白衣高血圧の予後については脳心血管病発症リスクが高いとする報告や脳卒中や心疾患の発症では非高血圧者と有意な差はないとする報告もあり予後のリスクについては両方の報告があるため、まだ結論がでておらず**注意深い観察が必要**との記載があります。

1日1回2mgと最低規格でのフォローが続いているH氏ですが、白衣高血圧状態が消えない限りカンデサルタンは止められないかもしれません。

☛もし最低用量の1種類の降圧薬を服用していて血圧も基準値下限近い患者さんから「もう血圧の薬は止めても良いと思うのだけでも」と相談を受けた場合の回答として「血圧の薬を飲んでいるから今の血圧をキープできているのだから自己判断では決して止めないでください。主治医と十分に相談してくださいね」というのが一般的だと思われそうですが、診察室での血圧と家庭での血圧を確認して白衣高血圧が疑われるのであれば「白衣高血圧かもしれませんね。白衣高血圧の場合は注意深い観察が必要とされているので家庭での血圧が下がっていても服用は続ける必要があると思います。病院での血圧が下がりそれが続くようならば主治医と薬の必要性を相談してみても良いかもしれませんね」というのも回答の一つかもしれません。

4) 日常生活下での収縮期血圧の増減(mmHg)

下記は昔、私が講演会に行って聞いた時の富山県立中央病院のある高血圧専門医師のスライド内容になります。安静時の血圧から各動作の収縮期血圧の増減を示しています。

安静時を0とした場合、日常生活下での収縮血圧の増減(mmHg)			
睡眠時	-10	着替え	+11.5
読書	+1.9	歩行	+12.0
食事	+8.8	仕事	+16.0
家庭内雑務	+10.7	会議	+20.2

これを見ると家庭内雑務や着替えでも+11mmHg前後の増加がありますから、病院外来で診察前に自分で血圧測定する時には少し休んでから測定をしてくださいと声かけられるのも理解できる所です。

また家庭で血圧を測定する時は複数回測定して平均値を求めるのが良いとも言われますが、ある医師に言わせると1回目の測定時にカフで腕をギュウと締め付けられる際に交感神経系が興奮してくるので2回目の測定を直ぐに実施すると血圧は高くなりがちだと言います。5分程度時間を開けた方が良いとも言われますが、この付近の話は微妙で1回目が高くても深呼吸をして気持ちを落ち着かせてから測定すると2回目は低くでることがあります。

先の資料を提示した医師は要するに1回だけの測定で**一喜一憂しない**ようにということを行ったわけ、さらに日々血圧を測定して**全体のトレンドで血圧を評価**しましょうという話でした。全体のトレンドで評価するという話は他の慢性疾患に共通した考え方だと思います。

(終わり)